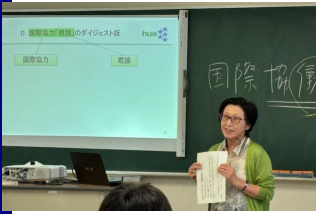


2 学年 模擬講義 (9月3日) 生徒の感想です。



講義1:「持続可能な開発～その行方を国際協力の観点から見てみよう～」

北海道教育大学函館校 国際地域学科 津曲 真樹 先生

- ・世界の貧困の差が大きくて、中でも右肩上がりに国内経済が進んでいる地域もあれば、低所得などに苦しんでいる国も多くある。そして、戦争によって今までの生活が不安定になること、職・食が手元から消えてしまうことなど、様々な問題が我々の前に立ちはだかつて

いるのがわかった。

講義2:「往来物で変体仮名を読んでみよう」 弘前大学教育学部 市地 英 先生

- ・往来物から実際に変体仮名を読んで、書いてあることを推測する活動が心に残っている。変体仮名は例があっても、その中で文中で連綿などによって形がさらに分かりづらくなっており推測するのに苦労した。だがそれらを読めるようになるととても楽しいと感じた。昔の時代の人とは今の平仮名と違い、変体仮名を読んでいとなると考えると、相当知能が高かったのではないかとも思った。



講義3:「経済学者たちは貧困や格差をどう考えてきたか」 岩手大学人文社会科学部 齊藤 彰一 先生

- ・スミスやリカード、マルクスなど、その時代の経済学者たちによって資本主義から生まれる貧困・格差に対する考え方がすこずつ異なっていたというのが興味深かった。特にケインズの「不況は必然である」という言葉が印象的だった。教科書に出てくる内容とのことなので、来年度の政治経済の授業で、どのような状況からその言葉が生まれたのか学びたい。

講義4:「看護における患者との接し方-対象の特徴をふまえたコミュニケーション-」

青森県立保健大学健康科学部 長内 志津子 先生

- ・看護とは療養上の世話と診療の補助の2つの役割があることがわかった。コミュニケーションが大事な理由は、対象者の緊張を和らげること、対象者を精神的に支えること、対象者が不安を表出できることだとわかった。



講義5:「情報カスケード」 弘前大学理工学部 守 真太郎 先生

- ・人の行動を物理を使って表すことができるのにびっくりしたし、面白そうだなと思った。
- ・印象に残ったのは、ニュートンの運動方程式を人に当てはめて応用していくところだ。2択問題を軸に話が進み、カンニングは人が影響を及ぼしあうことで正答率にばらつきが出るという話が面白かった。



講義6:「新たな生命をつくる-動物の繁殖・生殖工学技術-」 岩手大学農学部 澤井 健 先生

- ・クローン技術はとても難しいかわりに成功率が100%だと思っていたのですが、そういうわけではなく、難しい上に決まった遺伝子がしっかり働かないと元気な状態で育たないというのに驚きました。
- ・畜産の仕事は繁殖させて乳をしぼることなどしか知りませんでした。しかし今回の講座で繁殖についても詳しく知ることができ、また他にもたくさん夢のある仕事があることを知りました。特に、家畜人工授精師という仕事は興味深かったです。



講義7:「触媒がエネルギーをかえる」 東北大学大学院 轟 直人 先生

- ・SDGsを重視する社会の中で水素が重要な役割を果たすことがわかった。また、水素を活用していく中で、触媒が重要であり、触媒となる金属によってその特性が異なることについても知ることができた。東北大学の材料科学総合学科においては、さまざまな分野で活用される研究が行われており、就職に対しても大きなアドバンテージがあることもわかった。
- ・AO入試などに挑戦するにあたって、高校時代の様々な積み重ねが大切とのことだったので、今のうちにたくさんの経験を積んでおきたいと思いました。



1 学年 職業人講話 (10月2日)

地域で活躍する企業の方を迎え、仕事内やその魅力、SDGsの取り組みなどについて学び、地域の魅力を発見しました。

番号	講座名	企業名	講師名(敬称略)
1	警察	青森県警察本部 警部補 十和田警察署警務課 巡查部長	田中 美寿 一沢 功平
2	観光	青森県観光交流推進部観光政策課 主幹	石山 陽大
3	検察	青森地方検察庁八戸支部 検察官副検事	姉帯 満
4	IT	株式会社ビジネスサービス ソリューション 営業推進部	附田 麻衣
5	地域県民局	上北地域県民局農林水産部 農業普及振興室	白田 裕
6	税関	函館税関八戸支署 統括監視官 函館税関八戸支署 統括監視官付	早淵 峰青 川野 繭
7	情報通信	デーリー東北新聞社編集局報道部	工藤 洋平
8	医療	公立七戸病院 総看護師長	原子 敬子
9	製造	株式会社ササキコーポレーション 取締役技術開発部長	甲地 重春

生徒の感想

- ・自分のなりたい職業に就くために努力するのはもちろん、講師の方々のように「なりたい」という気持ちを持ち続けたいと思いました。
- ・成功の対義語が失敗ではなく、「何もしない」というお話が私にとって新しい発見でした。成功は失敗を積み重ねてできるというイメージが強く、心の中で成功と失敗は密接な関係にあると決めつけてしまっていたので、今回のお話を聞いて目からうろこが落ちたかのような気持ちでした。自分の視野を広げることができたと思います。また、勉強をする理由は生きたいように生きる力を身に着けるためというお話も参考になりました。今までは、社会で生きていくためや、自由になるためなど抽象的でありピンとこないお話ばかりでしたが今回の話を聞いて自分で納得することができました。

- ・自分が素直にやりたいと思うことをやればいいんだと感じました。夢は無理に持とうとしなくていいし、心のうちから湧き上がってくるものをやることに全力で尽くしたら良いと学ぶことができました。
- ・今回の職業人講話を受ける前は、青森県で働きたいという気持ちがほとんどなかったけど、今回の講話で青森県で働いてみるのも将来の視野に入れて考えてみようと思いました。
- ・収入と支出を考えるとほかの県よりも青森県のほうが残るお金が多いから青森で働くのもいいと思いました。ITの仕事について知らないことばかりだったから話を聞けて良かったです。まだ明確に職業が決まっていないから職業の幅を広げられるように勉強を頑張っていきたいと思いました。



- ・講師の先生方のお話を聞いているうちに、地域に貢献できる仕事も楽しそうだし、やりがいがあるのだと感じました。私はずっと青森から出て働いて生活したいと考えていましたがどこかのタイミングで青森に帰ってきたいと思いました。職業だけでなく、生き方について考えるきっかけになりました。
- ・三本木高校で学んだ経験は何かしらの形で生きてくる、と検察の方がおっしゃっていたので、もしあまり気が乗らない作業があったとしてもその言葉を唱えて頑張っていきたいなと思いました。

した。これを機にいろんな職業について知り、関わりを実感したいなと思いました。

- ・検事は個人の人生に深く関わる仕事なので公平な立場で判断することが求められると知りました。自分の正義に従うのではなく、被告人や被疑者の人生について深く考えて行動することが大切だと思いました。また、あまり馴染みのないIT業界についてのお話も聞きました。IT企業は具体的に何をするか、どんな人の役に立っているかなどを知ることが出来て、とてもやりがいのある仕事なのだと思います。ITに限らず、それぞれの仕事にそれぞれのやりがいがあり、みんなが誰かの役に立ちたいと考えていることで青森県が成り立っていると考えました。大人になった時に誇りを持てるような仕事に就きたいです。そのために今から将来についてしっかり考え、人や世のために働ける人間になりたいと思いました。

